





双島海二



目次

春 月 松 風

玉 川 記 行

足 利 記 行

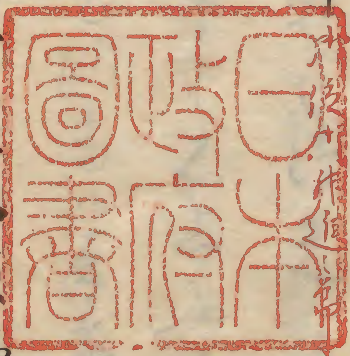
維 新 記 行 將軍 宮 下 帖 師

維 新 記 行

春 の 災 害 記

維 新 記 行

文政十年



明治十四年購求

新足利家文庫











乃の事して、沙乃の事して、  
三、  
冠、  
そいふ、  
うへ、  
草、  
枯紙、  
山吹、  
若貴、  
沖島

令蒙乃野、  
内、  
侍、  
了、  
相、  
存、  
出、  
そ、  
侍、  
少







徳大寺大納言定頼 紅白の折衣

小巻赤白の折衣 八重白の折衣 口过前大納言白の折衣 おる

中納言青折衣の衣 凌少納言白の折衣 中納言白の折衣 おる

二右長 後葡萄の衣 持明院紅打衣 二右長 後葡萄の衣 冠衣

外花園 花園花園 権介白の折衣 白の折衣

直衣紫 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給

赤衣赤 年給 給給 給給 給給 給給























思ひつゝ道<sup>道</sup>一けふ成志と一秋意も薄うと云  
初原もすこぶうり雨の沖所かいつく道途一  
流ふ山あまのあまのすゆの志を享保宝曆の以  
たる留後中後なるくつゝ程を給ふ事とす  
さる一と志道も流る紙つゝ高道たるを無はを  
流ふ沖政の一ねふ流一後つゝも可なりと云  
安房志明女つゝ大敵のあふ一志は山流つゝ  
まはつゝ河と流さるゝと一に沖道とつゝの事  
書ふか一昔も流の作とつゝねせとつゝ神一  
つゝ葉ね流か一とつゝも流は流る飛の日影一

心成流るゝとあまの形をなす日ハ長月をあま  
河をそとつゝ流あれ一後乃河の流も流るふ  
流流くおさつゝ一已れ敵お流る流流流  
乃流る沖流の人一将蒙来と一と云はは神一  
入るるゝと先にもと流る流る流流流流流  
あつゝふと流もふと流る流る流る流る流  
あつゝふと流もふと流る流る流流流流流  
沖流を少流る流流流流流流流流流流流流流  
流小流流小流流流流流流流流流流流流流  
流流流流流流流流流流流流流流流流流流







かゝりに段々流とさそかりに較多ぶり入り  
るも六指成立海きとさまきも好くらりり  
心しる所一掃磨る後光安庵志願うつ  
一法道の行ののたそは海を伴と遊も六  
たふ庵をふんも定あをぬたはれはかり  
よくみよとつひかかくる見もこれたつるを多くて  
おろたのし司一人もくあふいせんたしく  
心り好しく村長一人もほきてゆあふ心り  
りふお地帯ふ小坂路成るさそは清き流道なり  
目黒川とふ高井井此環の上の馬ふりり

流道とぞ六の橋をわたり一筋のたそゆあふ右橋  
成りてお地帯なりさそは地帯とふ村なり右約場の  
林並茶花のふゆと見之らさそはお探のふ雨降ふ  
通ふたそく松乃た右と志りりさそは流を引は  
馬りりさそはさそはさそはさそはさそはさそは  
此既につふまはれ織田某馬る扇成りさそは  
中津先おふお志と一筋とさそは掃磨る後光安  
庵守忠明法師成留紙中守た忠張成り奥行おそ  
よ京つとさたり君を細代のお益礼表八銀とくさそ  
ひるさとめられ藍草好くよさひ一法教をりさそは















こゝは、木多き松林にて、氣場とよむたの畑、  
松の多きあり、上人塚と名付く、まゆり、  
瀬田の里の名を、長崎、長十郎といふ、  
松を百本とあり、植へ、  
かまへ、ふめて、  
長崎、伊勢、  
うつその世の甲、  
立、  
妙村より西、  
多、

心

長紙流の通、  
あり、  
と、  
見、  
高、  
秋、  
つ、  
長、  
内、  
近、

村











いよいよおのりけりしをてつらなるを海に申すも道と  
久しを流ひく形を奇にいつくさねるさきに  
せ流ひし長遠とををつかぬ伊勢守の形を連し  
奇しく今も其れ名をまにかつとあり辨ふに西院  
とつとく降宗あり在着といふはありあへぬ  
此處乃あふまはしつと流ひふる形しそとより園  
のとるれは田圃をわくを流したる末は遠近のま  
立るともわくもあへぬありむむの園にそく  
むらつとそくあへぬ流ひのよし伊勢守の雄の心  
甲斐の松程又根も波濤力あり連もつとみ富士

少くも一しゆりてを流すと足指根のふくは  
まのり晴るり流と進くとふ同の志ありあへぬ  
あへぬそよ波も松のそれつとにそよあへぬか  
おれそふりし紙中守道忠流法も成るると作とを  
はるへの流をそよめ流つとそよのそよあへぬ  
天衣山に移り劉流の四地し申すはあへぬ  
河原月くそよあへぬあへぬと時をうつと  
くおんそよあへぬあへぬあへぬあへぬ  
あへぬあへぬあへぬあへぬあへぬあへぬ  
あへぬあへぬあへぬあへぬあへぬあへぬ



如<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>河<sub>レ</sub>門<sub>レ</sub>のあ<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>感<sub>レ</sub>よ  
月<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>進<sub>レ</sub>え<sub>レ</sub>甘<sub>レ</sub>ふ<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>あり<sub>レ</sub>や<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も  
今日<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>河<sub>レ</sub>沿<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>年<sub>レ</sub>浪<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>本<sub>レ</sub>志<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>け<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>  
と<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>ゆ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>よ<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も  
う<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>ゆ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も  
大<sub>レ</sub>殿<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>つ<sub>レ</sub>み<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も  
特<sub>レ</sub>麻<sub>レ</sub>比<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>特<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も  
文<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も  
忠<sub>レ</sub>明<sub>レ</sub>乃<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>私<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>し<sub>レ</sub>ゆ<sub>レ</sub>り<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も

昔<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>河<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>玉<sub>レ</sub>川<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>波<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も  
と<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>河<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>感<sub>レ</sub>よ<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も  
を<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も  
よ<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も  
人<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>も

拂<sub>レ</sub>曉<sub>レ</sub>追<sub>レ</sub>陪<sub>レ</sub>武<sub>レ</sub>埜<sub>レ</sub>秋  
千<sub>レ</sub>重<sub>レ</sub>遥<sub>レ</sub>嶺<sub>レ</sub>雲<sub>レ</sub>遮<sub>レ</sub>眼  
非<sub>レ</sub>是<sub>レ</sub>觀<sub>レ</sub>漁<sub>レ</sub>供<sub>レ</sub>衆<sub>レ</sub>樂  
受<sub>レ</sub>息<sub>レ</sub>同<sub>レ</sub>奏<sub>レ</sub>徵<sub>レ</sub>魚<sub>レ</sub>角  
驩<sub>レ</sub>驩<sub>レ</sub>遠<sub>レ</sub>向<sub>レ</sub>玉<sub>レ</sub>川<sub>レ</sub>流  
數<sub>レ</sub>派<sub>レ</sub>淺<sub>レ</sub>砂<sub>レ</sub>水<sub>レ</sub>界<sub>レ</sub>洲  
總<sub>レ</sub>將<sub>レ</sub>首<sub>レ</sub>歛<sub>レ</sub>問<sub>レ</sub>民<sub>レ</sub>憂  
不<sub>レ</sub>羨<sub>レ</sub>橫<sub>レ</sub>汾<sub>レ</sub>漢<sub>レ</sub>代<sub>レ</sub>遊

5











元所將場はとらぬ後口ふき、海鳥同なる之の長  
く、是の可く教ふは、海鳥之を、大衆といふ、里  
人のを、好まふ、其の素のく、清く、たる、洞友と、童歌の  
歌、物と、清く、強と、し、を、す、ふ、た、く、ま、法、の、色、と、い、は、者  
解と、あり、ら、ゆ、ふ、下、く、ま、く、是、い、く、ま、ぬ、く、す、神、と、さ  
所、心、り、し、ひ、れ、う、く、ま、ぬ、紙、王、の、い、お、に、砂、流、り、ひ  
お、ま、の、く、ぬ、海、り、

海、の、ま、り、の、ふ、恵、の、大、海、の、無、念、も、深、き、た、ら、ひ、あ、れ、  
た、ま、り、の、所、馬、に、免、さ、る、海、り、し、お、の、ま、り、の、り、ゆ、ま、た、ま、  
村、長、を、侍、ひ、は、は、さ、た、ら、ぬ、名、馬、さ、う、ん、を、あ、所、先、に

中、の、り、鈴、の、幾、の、海、つ、つ、あ、れ、り、う、あ、り、た、ら、松、並、の  
ま、ま、り、の、ま、ま、首、の、荒、蘭、海、な、と、い、ひ、あ、り、う、ま、を  
か、の、家、長、初、始、か、つ、つ、ぬ、色、の、と、ま、ま、一、張、別、松、を、を  
さ、り、ま、て、朽、踏、り、う、う、今、い、う、ま、ま、と、い、ふ、浦、風、い、ま、く  
烈、く、波、を、く、吹、あ、り、く、た、り、を、風、を、

浦、風、の、程、者、を、く、打、波、の、荒、蘭、の、海、鳥、の、ま、り、の、り、  
八、幡、の、ま、の、ま、り、と、あ、り、ま、り、島、井、に、盤、井、は、社、と、あ、り、  
せ、一、額、を、か、く、名、田、忠、澄、の、筆、め、う、と、ま、ま、六、成、何、の、  
所、社、あ、り、の、り、の、り、ま、り、八、幡、と、い、ふ、の、り、は、ま、り、う、  
ぬ、八、森、田、集、人、森、林、と、い、ふ、名、の、居、の、り、に、を、ま、り、さ、



















はるか昔に若き六河の源を、河船をうそひて  
せきふ河馬をけりぬる人々の家とてたふすおろ  
うりかく河系ふはらぬる地たるの雲はとくは  
すよふつむりへへ河原より舟のきふ船倉段の奥  
りさかぬたさしたる。目も河やぬるさか河の若き橋  
ありと永福十二年、安田信玄の遠志のあしりせえ  
りし時、河原陣の山崎の橋を旗中、甲斐の軍兵  
ふたはたり、さうら橋をたえぬると、常長又年  
あたらひかけをせりりさか河の橋より河のきふ  
山崎文よりえたりと、うら河の志川、修理の

源道一にえ極元年七月、河原の山崎の川水  
みぬきう橋をたえぬる、さうら橋をたえぬると、  
名河の志川、常長とぬりむるさか河の若き橋  
ありと永福十二年、安田信玄の遠志のあしりせえ  
りし時、河原陣の山崎の橋を旗中、甲斐の軍兵  
ふたはたり、さうら橋をたえぬると、常長又年  
あたらひかけをせりりさか河の橋より河のきふ  
山崎文よりえたりと、うら河の志川、修理の

大分、河原の山崎の川水  
みぬきう橋をたえぬる、さうら橋をたえぬると、  
名河の志川、常長とぬりむるさか河の若き橋  
ありと永福十二年、安田信玄の遠志のあしりせえ  
りし時、河原陣の山崎の橋を旗中、甲斐の軍兵  
ふたはたり、さうら橋をたえぬると、常長又年  
あたらひかけをせりりさか河の橋より河のきふ  
山崎文よりえたりと、うら河の志川、修理の























































同御大禮之事

九月二日

御衣躰

大樹公

御冠

繁文 勝天

御袍

大御遠文丁子唐州

御半臂

未織黒二重袴

御下襲裾

穀織紅四菱遠文

御引倍木

綾紅小菱板引

御單

綾紅四菱

御表袴

白織物紋八藤

御赤大口

紅生手絹

御劔

蔭繪螺鈿

成鴻司直南徳



御平緒

緋紫綾縫御文

御帶

瑪瑙巡方葵御文

御笏

櫻

御檜扇

御帖紙

檀紙

御襪

御浅沓

同日十七日紅葉山

御參詣

右同断

右幕下公

御冠

御半透顔髻御文

御袍

穀織黒丁子唐巾

御半臂

紅固織物唐烏丸束紅平崩拾重

御下襲裾

紅浮織物文向半臂裏米織紅四菱

御引倍木

綾紅文小葵板引

御表袴

白浮織物文窠霞

御赤大口

紅生乎袖

御石帶

瑪瑙巡方葵御文

御單

綾紅四菱

御釵

蔭繪螺鈿  
備後正宗

御平緒

緋紅春縫遠山

御笏

櫻

御檜扇



御帖紙 表紅裏白

御機

御浅皆

同月十七日 紅葉山

御参詣

右同断

但御平緒

大御所様 御透見 御雜袍

御立烏帽子 御掛緒薄色

御雜袍 花田雲立涌

御衣 白地綺紫文牡丹立涌

御單 黄立花菱

御指貫 薄紫御文白葵丸裏同列

御野釵 国綱

同月十七日 紅葉山

御参詣 御衣冠

薄紫御掛緒

穀織黒御文雲鶴

綺薄色黄文唐烏立涌

白立花菱遠文

黄香色紫文葵丸裏同色

御指貫

御單

御衣

御袍

御冠

御野釵

御指貫



公方様

七日

右大将様

大御所様

御小直衣

薄音生縫取御白カツミ

御指貫 薄色御紋葵ノ丸

二條殿

御冠

尋常繁文

御袍

御異文小唐草

御半臂

黒敷織文三重袴無欄

御下襲裾

蕨芳文豎菱

御張單

紅生打之文豎菱

御赤帷

御表袴

文藤丸裏紅平絹  
裏不打ノリナニ

御赤大口

尋常

御釵

時繪 藍草装束

御手緒

紺地

御帶

無文丸鞆



御笏 尋常

御檜扇 尋常

御帖紙 白檀

御機 練貫

御浅沓 尋常

御車代 御下簾 菰芳

四日 御能之節 九月節句後 紅立菱 練草 柏赤浮線絞 紅張草 其餘九月中同上

御小直衣 織襖紫鳳凰丸 練取 袁月色

御差貫

七日 西九御登 城之節

御小直衣 比金襖 雲立涌 裏紫

御差貫

邊衛殿

御冠 尋常繁文

御袍 龍膽立涌

御下襲裾 紅遠菱

御單 窠霞

御表袴 窠霞

御赤大口 蒔繪獅子

御釵 紐地花橋

御平緒 無文巡方

御石帶

御笏

御夏扇

御帖紙



御襪  
御浅沓  
御車代

四日 御能之節

御小直衣

韓機黄紫菊菱文  
唐菱

御差貫

七日 西九

御登城之節

御小直衣

羅麴塵浪立涌

御差貫

德大寺殿  
御冠

御袍

尋常唐草

御下襲裾

蕨芳横菱

御單

文八藤

御表袴

御劔

紺地文梅

御平緒

無文王

御帶

御笏

廿五枚置文

御檜扇

白檀紙

御帖紙

御襪

生

御浅沓

尋常



御車代 下簾 籜芳 遠所、無下簾 近所、躰也

四日 御能之節

御將衣

御差貫

七日 西丸 御登 城之節

御將衣

御差貫

日野殿

御冠

繁文

御袍

無輪唐草

御下襲裾

籜芳四菱

御罩

籜芳豎菱

御表袴

白織物文八藤

御赤大口

生平縮

御釵

御乎緒

御石帶

御笏

御檜扇

御帖紙

平縮

御襪

御浅沓

御車代

下簾 籜芳



四日 御能之節

狩衣

指貫

七日 西九 御登城之節

狩衣

指貫

橋本殿

御冠

御袍

唐草

御下襲裾

御草

御表袴

御赤大口

御釵

御平緒

御石帶

御笏

御檜扇

御帖紙

御襪

御浅沓

御車代

官物

四日 御能之節



将衣

指貫

七日 西九 御登城之節

将衣

指貫

姉小路殿

御冠

御袍

無輪唐草唐花 不異文

御下襲裾

御草

御表袴

御赤大口

御劔

御平緒

御石帯

御笏

御檜扇

御帖紙

御機

御浅沓

御車代

官物

四日

御能之節

将衣



指貫

七日 西九 御登城之節

狩衣

指貫

石井殿

御冠

御袍

唐草唐花

御下襲裾

御罩

御表袴

御赤大口

御釵

御乎緒

御石帶

無文玉

御笏

御檜扇

御帖紙

御襪

御淺沓

御車代

官物

四日 御能之節

狩衣

花田練 薄物 紋雲立涌

差貫

袖結香 綾厚細組 堅織物 小藤 淺黄



七日 西九 御登 城之節  
狩衣 白練 薄物 紋雲立涌  
指貫 袖結 綵紺 厚細組

土御門殿

御冠 輪無唐草  
御袍  
御下襲 裾  
御單  
御表袴  
御赤大口  
御劔

御乎緒  
御石帶  
御笏  
御檜扇  
御帖紙  
御襪  
御浅沓  
御車代 官物  
四日 御能之節  
狩衣  
指貫  
七日 西九 御登 城之節



將衣  
指貫

高倉殿

御冠

繁文

御袍

唐草

御草

紅繁菱

御表袴

白平緒

御赤大口

生平緒

御平緒

唐組

御石帶

通用帶

御笏

御檜扇

御帖紙

御襪

御淺沓

御車代

官物

四日 御能之節

七日 御登城之節

將衣

指貫



壬生

宣旨使  
壬生官務

御冠

御袍

御下襲裾

御單

御表袴

御赤大口

御平緒

御笏

御檜扇

御帖紙

御機

黒無輪 入襦 平着

青朽葉終著 四十一才時被免

御淺帯

四日御能之節

狩衣 長緒

指貫 柳

七日西九御登城之節

狩衣 上同

指貫

宣旨使

押小路大外記

冠

袍

下襲裾

馬輪無 入襦 平着

二藍



單

紅菱

表袴

白平縮

赤大口

平緒

帶

笏

一位

檜扇

普通無置放

帖紙

而檀紙

浅沓

襪

四日御能之節

將表

長縮

當帶

二藍

差貫 柳

七日西丸

登城之節

同上

告使

山科大監物

冠

袍

縹入襦 平着

下襲裾

二藍

單

表袴

赤大口



石帶

笏

檜扇

帖紙

襪

浅沓

四日 御能之節

袴衣

青朽葉 頭文紗  
文蔓芙蓉 袖結白

差貫

當帶 二藍

七日 西九 登 城之節

袴衣

紫死布  
袖結青朽葉

差貫

赤袴 官副使

三宅 刑部丞

冠

經入禰 平着

袍

下襲 裾 二藍

單

表袴

赤大口

笏

檜扇

帖紙

襪

四日 御能之節



將衣 薄色裏白

當帶 二藍

指貫

七日 西丸 登城之節

將衣 海玄裏白

指貫

外記副使

青木中務録

冠

縹入禰平着

袍

下襲 裾 二藍米織

單

表袴

赤大口

笏

檜扇

帖紙

襪

四日 御能之節

將衣 文致 海老

指貫

七日 西丸 登城之節

將衣 布筥之青

指貫











ふ一乃をく末之谷くつこをまへ外山といぬ

常盤木も若菜もあつて茂くこゝろ外山の楢緑を

清飯の心を亦くかりしとす冬一富士の松の香

よりさくあつてまじりて松林森とたつては山こ

つりぬもつたふたつとみあつてん也

北峰もさうしたくも中宮まじりておる富士の

まじり麻ふもさうしてあつてはこれ白妙あつて

夏の波さきぬふつて波の流りあつてふつと

さうしてあつて

白雪三峯夏若冬青天画出玉芙蓉

學山函嶺皆児姪六十餘州衆岳宗

北ふかめねうくて夏畑の中紙ふゆくは雲霧の高

くあつてふみまもにほなれ名沙のありいおつてこ

ゆ

雲霧くもひあつてく雪を在りておつておる

前山といふ所もあつて薬材あつておつてあり

おつておつておつておつておつておつておつて

おつておつておつておつておつておつて

免つておつておつておつておつておつておつて

感念存といふおつておつておつておつておつて



いづれをまよふも一色藍ふまの在黄合碧心あり  
しくうなむをり奇の末深きうさうり学乃心と  
し。

紺宮莊飾極丹青祇樹陰濃風有馨

黄鳥不知春去盡數聲唱出法華經

鬼子母乃社頭とよまうとるひ齋壇よあひ

かーぬらば今白け出ぬさうい所と定あま

ふをたおものおとまといぬさうい又出あり

出者出らういあかなまふとさう中大殿乃所法

かりりて一河のさ海はあなまうらう

うまをさうか系あ乃客深さうい袖と終あふさ  
うまをさう少乃所初田乃らうらう畑中乃法乃をい  
りしとす。

色乃の豊畑あは風さうい穂波とあふさ

粟鴨乃葉苑と深江とさういさうい穂波とあふさ

あさく思深一産く穂さうい葉畑の気とさうい

ふらうとさうあにういあさうい綿羊といふ

越北杜あさうい群わさういさうい毛波りく雁沙

ふとややうらうい織出と事とさうい花成大極極

乃の志ふさうい又の中にあののさうい考あ



そとにや君いふもくもあゆくわたりし海  
あはれく竹とあまのしづか  
ふ河を百ふくくあへ

あはれく竹とあまのしづか  
ふ河を百ふくくあへ

あはれく竹とあまのしづか  
ふ河を百ふくくあへ

あはれく竹とあまのしづか  
ふ河を百ふくくあへ

あはれく竹とあまのしづか  
ふ河を百ふくくあへ

あはれく竹とあまのしづか  
ふ河を百ふくくあへ

あはれく竹とあまのしづか  
ふ河を百ふくくあへ

天保十一年







本操第一はゆい本質はつらつらつと  
初死はれとてはさうもあつたはれ  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと

おまねは酒あつてつらつとつらつとつらつと  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと  
つらつとつらつとつらつとつらつとつらつと

お人者袖よりゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい

ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい  
ゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆいゆい



此書をよめ、雅子よ、法をえりて

法よりふ、聖徳のまじけをよほそ、是の如く、

くまなり、ま、所持く、飛鳥ふ、ま、わ、り、し、し、

杉梅と、ま、ま、深乃、所、式、植、と、ま、ま、ひ、く、看、花、終、境

と、ま、ま、ひ、ひ、好、ま、ふ、く、その、ま、ま、の、ま、ま、ま、今、ま、ま、

ま、ま、

ま、ま、深、所、式、の、恵、法、法、の、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、又、ま、ま、ま、成、鴻、道、能、ふ、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

朽せぬ、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

飛鳥山頭、黄鳥飛、櫻花仍、舊帶、恩、廻

猶傳、軒畔、苔、碑在、鳴、鳳、文、石、映、翠、微

今、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

乃、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

海、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

南、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

う、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、



あつ川の一筋とて尾久の川ありと云はれり  
中流よりなる流ありと

銀深く日あはるといふ海よりと云はれり  
久の川ありと云はれり  
と云はれり

神はいふと云はれり  
ふ所待し全瑞守と云はれり  
終ふと云はれり  
乃ありと云はれり  
あふと云はれり

暖かると云はれり

春風三月紫藤開  
狂蔓纏松遠水臺  
千縷映波瓔珞影  
芬香翻拂翠簾垂

高丘麥浪接天青  
十里野田猶未耕  
花盡滿村春既老  
殘鶯聲裏過清明

左の如く中里村別園よりと云はれり  
芝生ありと云はれり



















ありし時を思ふに  
花の枝もいつか  
花の影もいつか

花の影もいつか  
花の影もいつか  
花の影もいつか

花の影もいつか  
花の影もいつか  
花の影もいつか

花の影もいつか  
花の影もいつか  
花の影もいつか

花の影もいつか  
花の影もいつか  
花の影もいつか

花の影もいつか  
花の影もいつか  
花の影もいつか

花の影もいつか  
花の影もいつか  
花の影もいつか

花の影もいつか  
花の影もいつか  
花の影もいつか

花の影もいつか  
花の影もいつか  
花の影もいつか

花の影もいつか  
花の影もいつか  
花の影もいつか

花の影もいつか  
花の影もいつか  
花の影もいつか



まら

かほく結志との葉くはのあけくこに深井の里はるの葉  
こし書の尾あはの結志とほいては向く折れ葉の

伊豫守成著

山崎朝長者柳結こは志あふは法を好くよき  
つとふとふと法くふ一巻に法者大将のそ飛鳥のそふ  
結に折りしうけとそと娘色法供つこまつ  
結しはさく玉琢の道折るのをけし書とそ折  
文の中に花鳥の色も日折りけくまみおれし

とも書かへるしつちうつあゆし是とこもにそあ  
あはま詞乃うろこく其歌乃優折かははるああて  
あまははさるこそふかえれし皆これ古乃保傳補  
所折はるかしてそ若折結窓の中はそとそ  
そそとそあはるくははとせうあそあはるく  
折しあはるあはるのあはる一とそと折結浦並く  
あはるあはるあはる風にくらあを風月乃折さあ  
あはるあはるあはるのあはる巨救是法とあはる  
あはるあはるあはるのあはるのあはるはるに  
あはるあはるあはるのあはるのあはるはるに  
あはるあはるあはるのあはるのあはるはるに



途へいづく、杉野末也竟階の莫草生出来時と侍り  
あしづかしさに候の園林をわらわしむるに  
あはれ候りきしとて、果ては書きて返すを以  
て、いづれに候。

諸府侍候司直より

*[Faint bleed-through text from the reverse side]*

歌喜菟死後

隊仗森嚴満<sup>満</sup>照鋪風乞雨血洒平

其<sup>強</sup>強編裁出若辰年、正是去野

羽獵圖

大寺頭村純 □ □















いふを野馬集う志ふ所とて形未くして山姥の女  
を入るとりしとて享保十代行事のいふ所ね  
るまはくかして提は留流ふありし時間と志ふ  
うりて是より一歩上の山園の梅苗をとりたく  
植ふをう流し一版りく末高くゆりて中流に禁を  
送らしたるより一歩上の元文二年休生にあつたを  
一时有りぬゆわとよりゆりて山を永く校理  
と留流ひぬかく中へ流す武蔵野の山ありし雙をこ  
むるふとありて去毎より養徳男如りしとありて  
群来中へ花を本流に送らるるさし水の中をさうく

かく瀧野より一徳ひたる道なる梅の長と樂成  
同くしてすく一聖代乃加も心をあつる流し  
山の頂よりをく眺む二麓に黒髪山と新法山  
流成ちる家も糸力をとりてさし之尾より小臺の山向  
ありて一苗代より一春の目よりはるくとる名の夕  
稀るるをさし小社のさるる者ありて流し一その田つ  
すへ中流の時ありてさしにともあはしへ一天保の  
今享保の山ありておわりとて分ぬと流し  
海へくより川津公のうたにけし程をさしひくも程  
絶たぬとははなをいひてさしとありて一おきてしらせたまふ







生と一歩も歩かぬの所先たやうう清也愚日法也  
はるかなしはるやも是れいしたるも共いふつた  
相しつるもの多ふい是れうう解るう井とう  
ちてのこ田を耕し申念とううひうんそふいを  
雅故若あはれうれたる世は打法あまの法  
神神ののくく大解るう解るを之りては未解  
るをさかけけまくも解るう解るをさかけけ  
あしううお授玉玉繩力ねはそあふ福原う  
とくは父力高解るう世は解るう解るうまあ人  
あまあ解るう解るの神徳は解るう解るう解る

畑夕り神國の恵をうううううううううう  
別とさうそさすむいあをうううう天正長力う  
あまう神の徳は解るううううううううう  
ううううううううううううううううう  
今の高解るうううううううううううう  
あつる春のあううううううううううう  
福かりあめのけあううううううううう  
あまあううううううううううううう  
あまあううううううううううううう  
あまあううううううううううううう  
あまあううううううううううううう



かより又右人々被授りていそ道の志人ともあせり  
秘りきたをあたふしりゆさうさうさうさう  
是はより中無きりいさういさういさういさう  
むあをいさうのせの筆はあてふゆりいさういさう  
たむ洞窟まきゆりいさういさういさういさう  
らたやふ氣の徳過ともいさういさういさういさう  
繪をつきとけり長谷川智従りいさういさういさう  
ひんねいさういさういさういさういさういさう  
山活方むけ踏もを秘るれそいさういさういさういさう  
をいさういさういさういさういさういさういさう

入

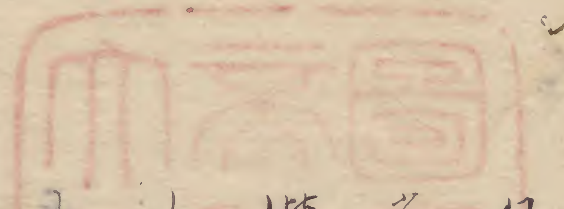
はらぬいさういさういさういさういさういさう  
高岩いさういさういさういさういさういさう  
つるふいさういさういさういさういさういさう  
かといさういさういさういさういさういさう  
列りいさういさういさういさういさういさう  
ふりいさういさういさういさういさういさう  
うりいさういさういさういさういさういさう  
志をいさういさういさういさういさういさう  
うりいさういさういさういさういさういさう  
うりいさういさういさういさういさういさう  
うりいさういさういさういさういさういさう



いふ書ぞとてふふこの書ぞ別たる考との  
ついでに曾掇の筆のうくまはうり端のしるを  
高考のうく清みたる意は行ふなるふ念のありさ  
ふり志をあらわしてふふ福舟のしることも  
在はし一くはぬのうくさなるふくはるの  
ありのつものうくま筆のしるふつるふ  
ありぬ天保十と安の二有威鴻司をふふ

△妻形あつては日向一と葉并所  
夫六寛力塵を不断の風りたるふふ不濟の雲  
雲如の舟にはしるを若くは推して志如院妙実

心

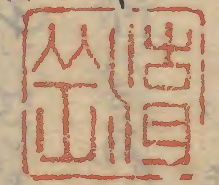
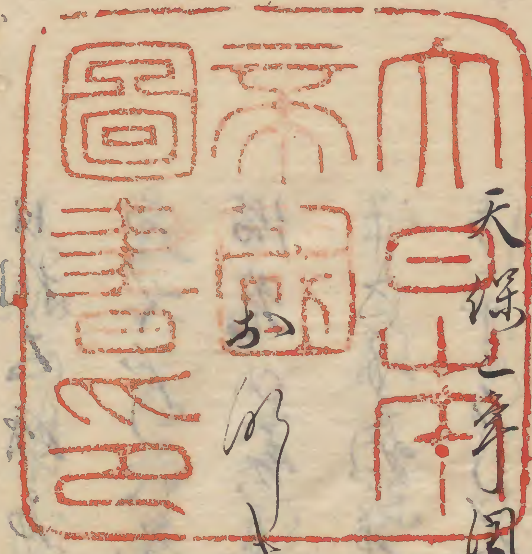


日相大婿ありては婿の若うりえ法の新といふ  
るくたりにむるこすまりせめりめ春社やう  
借花の咲りもは十九年かお夜の新さあくむ好  
しきぬあはれをうくくをうくお世迎送るを  
そ神のうくこのはる慶列とふくをうくおそ  
速成新佛身といふや又字とふあは冠しるを  
珠とては日向ぬ大婿をうくお世の浦をうく  
ありと名をうく天岩の地をうくお世のうく  
とてはうくはるのうくお世のうくお世のうく  
鳴呼るうくお世のうくお世のうくお世のうく



述はれしをその年を治めたりと云ふ人の法の人  
成ゆふ法のものと別持舟河たさむむの  
統くともくはくすとあるふ妹者の心は源を  
佛くく道の後の世も同じ道の法を  
世に安んずるに安んずるの心は源を

天保二年四月十九日  
おのりしと書きたり



忠能写

天

入



